



学校だより

1月号

横浜市立大道小学校
令和5年1月10日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「気づきたい『笑顔』」

明けまして、おめでとうございます。新しい年が、皆様にとって幸多い年になりますよう、お祈り申し上げます。

本年も、どうぞよろしく願っています。

兔年は「飛躍」「向上」の年!



この前、「全国中学生人権作文コンテスト・横浜市大会」で入選した、「気づきたい『笑顔』」という題名の作文に目が留まりました。まずは冒頭の部分です。

「○○菌だ！逃げろ～」一人の子に向かって言い、走り出すみんな。それが、小学二年の頃のある日に始まった。私もみんなが言っていたし、言われている子も笑って「やめてよ～」と冗談混じりに言っているように聞こえたから一緒に言って言った。

数日後、先生が「○○さんを菌扱いした人は自分から名乗り出て。」と言いましたが、私は「みんなと比べて、私は一、二回しか言ったことがないから。」ということで、名乗りませんでした。ドキドキしていると、「あれ、○○も言ってたよね。」と私の名前が出てきます。頭からつま先まで冷え切っていくのを感じました。教室では、「何で俺たちが怒られなくちゃいけないの？だって、あいつ笑ってたじゃんね。」という声が、みんなから上がりました。その後、先生に言われて、この出来事を母親に伝えることにしました。私は、「しっかりと説明すれば、そんなに怒られないだろう。」と思って説明しました。

その途端、母の顔は青ざめていき悲しそうな声でこう言った。「相手は笑うことしかできなかったかもしれないでしょ。笑っていたとしても、その子は傷ついていたと思うよ。」

この作文は、その後こう綴られています。

私は、この出来事を一度も忘れたことはない。変なあだ名でからかわれている時のあの子の笑顔。あの笑顔は、上辺だけでは分からない気持ちがあったのだと思うと後悔が押し寄せてくる。

この作文の「私」のような出来事が、子どもの頃、自分にも確かにあったことを思い出します。しかし、「いつ、誰に対し、どんな場面で....」といったようなことは何一つ思い出せません。これは、私が軽い気持ちで、友達に対して不用意な言葉を発していた証拠なのでしょう。もしかしたら、大人になってからも、相手の「笑顔」の奥にある気持ちに気付いていないのではないかと怖くなります。

学校では、「こういうことをしたら、相手はどう思うかな。」「こんなことを言ったら、○○さんは嫌な気持ちになるだろうな。」といった、「想像力」を働かせることの大切さを子どもたちに伝えています。お互いが、お互いの様子に気付き合い、自分の言動を律したり、思いやったりすることができるような、良い友達関係が築けるよう、これからも支援していきたいと思います。

今年も、「誰もが安心して生活できる」学校づくりに努めていきたいと思っています。